

「溺れるように苦しくて」新型コロナワクチン接種 13 分後にアナフィラキシー 突然膝から力が抜け歩くこともままならず【“ワクチン後遺症”を考える シリーズ 6】

12/28(日) CBC テレビ



▼CBC では新型コロナワクチンの副反応問題などについて、2021 年から取材を進めてきました。これまで放送した内容を複数回に分けて振り返ります。この記事は、2023 年に放送したものです。

新型ワクチン接種直後にアナフィラキシーを起こし、その後、全身の強い倦怠感に苦しむ女性。症状が治まらないまま 2 年が経ちました。

ワクチン接種 13 分後 “溺れるような苦しさ” が襲う

大阪府内に住む 30 代前半の女性。一緒に歩いている間にもひざから突然力が抜け、歩くこともままなりません。

(女性)

「急に力が抜けて、あのままこけたりもよくあって、こけて起き上がれない時もあります」

こうなったのは、2 年前の “あの日” から。

2021 年 6 月、東京の大規模接種会場で、モデルナ社の新型コロナワクチンを接種しました。その直後、身体に異変が…

(女性)

「1 回目（接種後の）待機中、13 分後に溺れるような苦しい感じになって むせて、頭も痛いし 気持ち悪いし 目も回るし、全身麻酔を打たれたような感覚になって、そのまま病院の救急室に運ばれて、結果アナフィラキシー」

まぶしいと症状が悪化 「電気を消して音をなくすと、すごく楽になる」

命の危険もある急性アレルギー反応「アナフィラキシー」でそのまま 3 日間入院。すぐによくなる。そう思っていましたが…

(女性)

「スポーツもしていましたし、自転車で通勤していましたし。普通に家にはほとんどいよいよ
うなアクティブなタイプだったので、それがその日からガラッと変わって」
頭痛や吐き気、めまいが一向におさまらず、接種から約3か月半後、ひとりで暮らせなく
なったため、大阪の実家へ戻りました。

2年たった今も症状は続いています。

(女性)

「電気を消して音をなくすと、すごく楽になって。まぶしいのがすごく症状を悪化させて
いることに気づいて、そこから新しいサングラスを買って」

夜も照明なしで生活

(大石邦彦アンカーマン)

「いまサングラスをかけてらっしゃいますが、この眼鏡をとるとどうなってしまうんですか」

(女性)

「気持ち悪くなります」

(大石アンカーマン)

「いまカーテンを閉めてらっしゃいますよね。これも外の光を嫌って？」

(女性)

「そうです。電気もいつもつけていないんです。夜になっても真っ暗で生活していく…」
昼夜問わずカーテンを閉め、電気をつけずに生活。音にも過敏になり、出かける時は常に
耳栓やイヤホンで耳をふさいでいます。

医師の診断は「慢性疲労症候群」。原因不明の強いけん怠感が長時間続き、頭痛や思考力
の低下などさまざまな症状が出る疾患です。

診察した医師全員が「原因はワクチン接種の疑い」と認める

(大石アンカーマン)

「しっかり書いてますね。診断名『コロナワクチン接種後 アナフィラキシーショック症
状遷延』」

ワクチン接種によるものだと、今まで診てもらった6つの医療機関の医師ら全員が認め
ています。

しました。

追跡 ワクチンで歩くのも困難に…
30代女性 慢性疲労症候群に

月	日	居住地又は勤務先
医 師 氏 名		
○程度(視力、聴力、咀嚼言語機能障害等)		
コロナワクチン接種後アナフィラキシーショックを示す		
2021 年 6 月 11 日		
アモニウム硝酸銅が3ヶ月以上かかる		

追跡

ワクチンで歩くのも困難に…
30代女性 慢性疲労症候群に

【診断名】新型コロナワクチン後遺症疑い、気管支喘息

女性の症状

ワクチン接種によるものだと医師らが認める

(大石アンカーマン)

「ワクチン後遺症の方は、医療機関にワクチンとの関係性を認めてもらえない人が多いが、そこはしっかり認めていただいているんですね」

(女性)

「ありがとうございます。一回も『ワクチンじゃないだろ』とか言われたことはないです」

歩くのも困難に…点滴やサプリメントなど様々な治療法を試す

月に1回のペースで、大阪府内のクリニックに通っている女性。

(大石アンカーマン)

「本当に街を歩くのは…、大丈夫ですか？…大変そうですね」

(女性)

「腕も使うと同じ事が起きるので、杖とか車いすも難しくて…」

点滴やサプリメントの服用など、様々な治療法を試しています。

(女性)

「いろんな治療を今まで試して、点滴が一番効いているという実感があって。今すぐ効くわけじゃないんですけど、点滴したら少し頭がクリアになって」

「貯金がいつ底を尽きるのか…」つきまとう不安

しかし「慢性疲労症候群」には、まだ決定的な治療法はありません。国の難病指定を受けていないため、医療費の支給も受けられません。

(女性)

「相当厳しいです。いま医療費だけで月7万円くらい使っていて、貯金がいつ底を尽きるのかなっていう不安がずっと付きまとっていて。それも効くか分からぬといいうのがあるので。でも賭けるしかない、それにしかすがるものがない」

主治医「それ以外の要因がなかなか難しい」

女性の主治医は…

(ナカトミファティーグ ケアクリニック 中富康仁 院長)

「経過からしか判断できないが、ワクチン接種後にアナフィラキシーショックを起こした」

(大石アンカーマン)

「これはワクチンと副反応の関連性はあるというふうに、先生は見ている？」

(中富院長)

「それ以外の要因がなかなか難しい状況。経過を丹念に追っていく中で、何が悪化要因かというところで考えざるを得ない」

「救済申請」病院の文書代だけで8万円 1000枚ほどの資料のコピーも

こうした中、2023年6月には女性に対し障害年金の認定が下りましたが、支給される年金はすべて医療費に消え、生活の足しにはなりません。

しかし、2022年12月に申請した国のワクチン副反応の救済制度は認められないままです。

(女性)

「提出までに1年半かかって、病院の文書代だけで8万円かかって、1000枚ほどの資料を控えとしてコピーをとらないといけないし、市役所とも何回も電話でやり取りしたり、本当に大変で」

「救済制度って言っているけど、『助ける気ある？』っていう制度だと思います」

調査を打ち切ったモデルナ社 接種を推し進める国

国に報告された副反応の事例はワクチンメーカーにも共有され、女性の症状について、モデルナ社は追跡調査の必要性を認めました。

しかし、一度の調査で接種直後のアナフィラキシーは回復していると結論付け、調査は打ち切りとなっています。

(女性)

「ちゃんと確認してくれれば、『まだしんどいんですよ』『まだ治らないんですよ』って報告するのに。しかもワクチン接種はその間も続いているわけで、調査もせずに『大丈夫ですよ』って言っている国に対しては不信感しかなくて…」

症状が続いているにもかかわらず調査を打ち切ったモデルナ社と、副反応の原因究明や治療が進まない中、接種を推し進める国には、憤りを感じています。

(女性)

「こういう被害に遭った人の声って邪魔だと思うんですよ。（接種を）進めようとしているのに、そんな危ないとか リスクなこと言わないでくれ、打ちたい人が減ってしまうじゃないかって」

「(国) 言いたいことはわかるんですけど、ちゃんとこれだけつらい思いしている人がたくさんいるというのを分かってもらって、あなたたちが認めないと故に、治るものも治らない、進む治療が進まない、研究も進まない、そういう現状を本当に真摯に受け止めてほしいです」